

桜蔭俳話会 四月句会(第三〇四回)

鎌倉(寿福寺・英勝寺他)にて吟行を実施

(吟行後の句会は鎌倉生涯学習センター)

平成二十四年四月二十二日(日)

3点①うぐひすの声惜しみなく立子の碑 友子

行く春や小町通りの守り猫 守

鶯の統べゐし鎌倉五山かな 明美

十字架のまじる墓域や花は葉に 明美

2点①花冷の山門閉ざす墓紋 秀一

①春の墓ポンプを強くこいでみる 真三

花は葉に川喜多映画記念館 守

1点①鶯やダルメシアン of 石畳 守

①春筍の世を怖れずにそこかしこ 秀一

納骨の三人をりし若葉萌ゆ ヤエ子

尼寺のせせらぎ細し芹しげる 友子

捨つために掘る春筍よ今朝いくつ 守

闇に座す乾漆仏や花の風 明美

栄転も左遷も同期花むしろ 貞勝

尼寺の庭を潤す穀雨かな 秀一

自信もて鳴く鶯や雑木山 秀一

禅寺の閉門しだれ桜かな 守

砂利きしむ鎌倉の路地のどけしや 友子

花守の見入りし古木傷一つ 明美

すりへりし小さき石段つぼ菫 ヤエ子

山鳥の色のとりどり花は葉に 明美

春光や窓より拝す三尊像 友子

花冷や矢倉に遺る金槐集 貞勝

尼寺やのびのび育つ華鬘草 秀一

※竹の子出づかけがへのなき大地より 友子

鶯やたつた二文字の虚子の墓 守

虚子忌や三世代なりホトトギス 真三

鎌倉や柏榎芽吹く石畳 秀一

シースルーエレベーター春惜しみけり 守

武士政治家子の墓や春眠る 真三

荒れし地の五輪の塔に桜舞ふ ヤエ子

寿福寺の虚子の墓なり山笑う 真三

花ひとひらふたひれに尼の泣く 貞勝

てのひらの水へひとひら八重桜 明美

二人静頼朝政子の墓のあり ヤエ子

空掩ふ古刹の柏榎鳥雲に 貞勝

閑伽水を坂下に汲む春の鶯 秀一

佇ずめば花に鎮もる虚子の墓 貞勝

うぐひすのいのち惜しやと鳴く日かな 守

竹の子の匂なりしなるあまたあり 真三

新緑の写りし池の静まりて ヤエ子

(不在投句 野上貞勝、古野明美)

「事務局より」

◎次回の吟行は、十月の予定です。ご希望の場  
所がありましたら、ご連絡ください。

◎通信句会を実施します。同封のはがきで作品  
をお送りください。

・ 締切り 五月五日(土)

・ 句数 春に属する季語を用いた三句